

平成 25 年度の九州地方環境事務所の事業報告②

公益財団法人日本生態系協会

- ・九州地方環境事務所では、過密状態にあるツルの自然分散を目的に、長崎県の諫早干拓と熊本県玉名市の横島干拓において、非給餌下のツルの行動を継続して調査している。
- ・本年度は、越冬後期にあたる 2 月初旬に、諫早干拓において 1 月 28～30 日までの 3 日間、横島干拓において 2 月 1～2 日の 2 日間、非給餌の環境下にあるナベヅル及びマナヅルの行動圏と採餌環境の調査を実施した。調査はツルの滞在時間にあわせて、各日とも概ね午前 8 時～16 時の時間帯で 2 時間置きに、ツルの個体数と分布状況、採餌状況を記録した。

現地調査の概要は以下の通り。

【諫早干拓】

- ・面積約 942ha。
- ・調査日や調査時間帯によって飛来数の変動はあるが、マナヅルは概ね 10 個体程度（最小 3～最大 9）、ナベヅルは 10～40 個体程度（最小 3～最大 42）が確認された。
- ・利用場所は干拓のほぼ中央部に集中（確認個体の 75%が利用）していた。採餌環境別に見るとトウモロコシ畑（全個体の約 57%）、水田（同約 25%）、牧草地（同約 11%）、ジャガイモ畑（同約 7%）。
→トウモロコシ畑、ジャガイモ畑では収穫されなかった未熟果を採餌。畑地では堆肥をついばむ様子も頻繁に確認された（おそらくミミズや昆虫類を採餌）。水田では二番穂はあまり見られなかった。

【横島干拓】

- ・面積約 624ha。
- ・調査期間中に確認されたツル類はマナヅルのみ。
調査日や調査時間帯によって飛来数の変動はあるが、概ね 10 個体前後（最小 3～最大 25）が確認された。
- ・利用場所はほぼ 2 箇所に集中。採餌環境別に見ると早稲米水田（全個体の約 46%）、牧草地（約 28%）、耕起された水田跡（約 15%）、普通期水田（同約 10%）の順となり、二番穂をついばむ姿が多く見られた。牧草地では採餌行為は殆ど見られず、休息のために利用していると考えられる。
- ・上記調査と併行して、ツルの大量死につながる可能性のある（罹患の可能性のある）鳥インフルエンザやコクシジウム等の感染症や疾病、感染症や疾病の発生後の対応、過密状態にあるツルの計画的な分散等に関する基礎情報の収集を目的とした文献調査を実施している。